日刊工業新聞

年月日	22	12	20	ページ	20	NO.	

産業界の応援実る

オリックス・バファローズ

26年ぶりの日本一

2022年、26年ぶりにプロ野球日本一に輝いたオリックス・バファローズ。中嶋聡監督の下、山本由伸選手や吉田正尚選手といった投打の柱に若手台頭やいぶし銀の活躍が加わり、「全員で勝つ」のキャッチフレーズ通りの強さを発揮した。そんなバファローズの躍進を、実は地元産業界も支えてきた。スポンサー企業や練習用具の開発企業、グッズ制作会社、そして熱烈なファン。大阪の中小企業でもジワジワと盛り上がりを見せている。

11月3日のオリックス・バファローズ優勝パレードには多くのファンが集まった

阪急時代から応援

中嶋監督効果の大きさ実感

富士電波工業社長　横畠 俊夫氏

―阪急ブレーブスからのファンとか。

「ブレーブスが日本一になった1975年は小学2年生で、その頃から本格的に観戦。高校でも部活後に球場へ足を運んだ。当時はブレーブスの黄金時代。野球のスタンドをその時代に求めてしまうので、昨年のリーグ優勝も『ようこんなんで優勝したな』と思ったくらいだ（笑）」

―この四半世紀は暗黒時代でした。

「選手でなくファンにも負けぐせがついていた。そのせいか今でもチャンスになると、スタンドのどこからか『あかんやろな』という声が聞こえてくるほど。それが一昨年8月中旬に監督が辞任し中嶋監督代行になると、目を疑うぐらいスターティングメンバーが変わった。そこから雰囲気が一変、あっさり負けなくなった。人事ってすごいなと感じた」

―今シーズンは何試合観戦しましたか。

「66試合。実はブレーブスがオリックスに譲渡された時、阪急最後の試合を見に行かなかった。それが後悔になっていて、節目節目の試合は必ず行くようにしている。ただ、もっと観客が増えてほしい。負け試合は1人で見ても良いが、勝ったあとは誰かと喜びたい」

来期への期待は「T―岡田選手の復活」と横畠社長

―優勝で球場の雰囲気も変わったのでは。

「今年のクライマックスシリーズで面白かった。日本シリーズは1試合1試合が面白く、普段野球を見ない人も見てくれたので変わったように思う。ホークス戦でも3塁側までほとんどがオリックスファンで埋まっていた。1試合1試合が面白く、普段野球を見ない人も見てくれたので変わったように思う。ホークス戦でも3塁側までほとんどがオリックスファンで埋まっていた。日本シリーズは